

地元産業界等と連携した実践的 PBL

プロジェクト名	遠隔によるジェンダー平等プロジェクト
大 学 名	聖泉大学
代表者（学生）	陳冬艷
科目名 （シラバス あり）	人間学部 プロジェクト演習 A プロジェクト演習 B プロジェクト演習 C プロジェクト演習 D
担当教職員	人間学部 准教授 富川拓
連 携 団 体	米原市役所
SDGs 目標番号	5、11

1. 取組み体制：

①聖泉大学人間学部（プロジェクト演習の一環として参加）

学生 8名（富川ゼミの学生）、教員 1名（富川）

②米原市役所（政策形成入門研修の一環として参加）

新規採用職員 13名（各庁舎から参加）、新規採用職員の研修担当職員 2名

2. 背景・目的：

【背景】

SDGs の取り組みが全国各地で進む中、地方創生、人口減少対策の鍵としてSDGs の目標5「ジェンダー平等」に改めて注目が集まっており、その実現が地方自治体の課題となっている。ジェンダー平等の実現に向けた取り組みは、全国各地の自治体で「男女共同参画政策」として多様な展開を見せている。

各自治体の男女共同参画政策の課題はその地域特性によって異なるが、共通の課題の一つとして、各種取り組みへの「若者の参画促進」がある。ジェンダー平等社会の実現に向けては、次世代を担う若者がジェンダー平等の問題を自分自身の問題として捉え、当事者の一人として取り組みに参画することが非常に重要となるが、多くの自治体では未だ不十分な状況にある。

【目的】

本プロジェクトは、米原市におけるジェンダー平等の実現を目指して、次世代を担う若者たち（大学生と市役所の若手職員）がチームを組み、コロナ禍に対応した遠隔によるグループワークを通して、米原市の現状に即したジェンダー平等政策を検討し、市に提言することを目的とした。

3. 活動内容：

聖泉大学人間学部の富川ゼミの学生と米原市役所の新規採用職員がチームを組み、コロナ禍に対応した遠隔によるグループワークを通して、ジェンダー平等政策（特にLGBTQに関する政策）を検討し、市に提言した。具体的な内容は下記の通りである。

- ①「SDGs」「ジェンダー平等」「LGBTQ」「日本、米原市のジェンダー平等政策」等について学んだ上で、グループごとに「LGBTQ」に関する検討テーマを選定した。
 - ②選定したテーマに基づき、グループごとに日本や米原市の現状と課題について調査分析を行った。
 - ③分析結果をもとに、米原市の課題を解決するためのジェンダー平等政策をグループごとに検討した。
 - ④検討した政策案を発表し、全グループで共有した。
 - ⑤政策案をまとめて、プロジェクトの「報告書」を作成し、米原市に提出した。
- ※参考資料 「令和2（2020）年度 米原市政策形成入門研修、聖泉大学人間学部プロジェクト演習（富川ゼミ） 報告書」

4. 目的の達成状況、成果

（SDGsの目標達成含む）

- ①当事者である若者たち（大学生と市役所の若手職員）が地域の現状に即したジェンダー平等政策を検討し、米原市のジェンダー平等（男女共同参画）担当部局に直接提案することができた。
- ②コロナ禍での活動であったが、遠隔実施によって当事者である若者たちの協働を実現した。
- ③メディアに働きかけを行い、活動内容が掲載されたことにより、ジェンダー平等の重要性についてより広く周知することができた。中日新聞2020年12月31日掲載



5. 課題、懸案事項

- ①提案した政策の実現に向けて、来年度以降の具体的な活動を検討する必要がある。
- ②提案した政策の実現に向けては、聖泉大学と市役所だけでなく、市民や企業、学校などとの協働体制の構築が必要となる。

対象学生	人間学部人間心理学科	開講年度	2021
講義科目名称	プロジェクト演習A	授業コード	1212
英文科目名称			
担当教員	富川 拓		
配当年次・実施時期	3学年・前期	単位数	1 単位
曜日・時限	水曜日 3 時限	時間数	
授業形態	演習	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある科目	科目コード H-3-41 実務経験のある教員等による授業科目 ☐ 該当
---------------------	---

ディプロマ・ポリシー	◎ : DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ○ : DP③ コミュニケーション能力 : DP④ 専門的知識・技能の習得 ◎ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ○ : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	プロジェクト演習Aでは、原則として履修者が一つのチームを組み、科目担当教員の指導のもとでプロジェクトを策定し、取り組んでいく。 このプロジェクト演習Aでは、SDGsの目標にもなっている「ジェンダー平等」などをテーマに、地域の課題解決を目指す。
-------	--

授業のねらい	DP1◎ DP5◎ DP3○ DP6○ 本授業の主たるねらいは、地域や自分以外の誰かのためになるよう主体的に動く姿勢を涵養することである。実際に誰かの役に立てているという実感が得られるとき、この姿勢は確固としたものに育っていく。また、意味のある活動をしていくには、多くの場合裏付けが必要である。これまで本学で学んできた様々な知識や技能を総合し、自分たちの活動を意味あるものにしよう活用していくことも副次的なねらいである。
--------	---

授業の到達目標	・地域や他者のために貢献しようとする姿勢を身につける ・問題発見や解決のためにこれまでの学びを活用できるようになる ・さまざまな人と協働できるようになる
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	プロジェクトの準備①	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	2	プロジェクトの準備②	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	3	プロジェクトの準備③	プロジェクトの準備と決定 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	4	プロジェクトの準備④	プロジェクトの準備と決定 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	5	プロジェクトの準備④	プロジェクトの準備と決定 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	6	実践活動①	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	7	実践活動②	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	8	実践活動③	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	9	実践活動④	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	10	実践活動⑤	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	11	実践活動⑥	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	12	実践活動⑦	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	13	実践活動⑧	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	14	振り返り①	個人、グループで振り返りを行う ※活動振り返りノート作成(1時間)
	15	振り返り②	引き続き、個人、グループで振り返りを行う ※活動振り返りノート作成(1時間)

履修要件	特になし。
------	-------

成績評価の方法・基準	平常点：100%（プロジェクトに対する参加姿勢、授業中に課す各種課題）
------------	-------------------------------------

教科書・テキスト	授業中に適宜指示します。
----------	--------------

参考書	授業中に適宜指示します。
-----	--------------

授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む) 及び課題等のフィードバック	活動状況に応じて適宜指示します。科目の性質上、プロジェクトの遂行に関わる重要な学習になります。学習が不十分な場合は、以降の活動参加を許可しない場合があります。
--	---

ドバックの方法	
オフィスアワー	一覧表参照のこと
担当教員からの メッセージ	活動だけではなく、事前・事後学習もしっかり頑張りましょう。
担当教員の連絡先	一覧表参照のこと

対象学生	人間学部人間心理学科	開講年度	2021
講義科目名称	プロジェクト演習B	授業コード	2219
英文科目名称			
担当教員	富川 拓		
配当年次・実施時期	3学年・後期	単位数	1 単位
曜日・時限	水曜日 3 時限	時間数	
授業形態	演習	科目分類	必修
科目コード /実務経験のある科目	科目コード H-3-41 実務経験のある教員等による授業科目 □該当		
ディプロマ・ポリシー	◎ : DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ○ : DP③ コミュニケーション能力 : DP④ 専門的知識・技能の習得 ◎ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ○ : DP⑥ 問題発見・解決力		
授業の概要	プロジェクト演習Bでは、原則として履修生が一つのチームを組み、科目担当教員の指導のもとでプロジェクトを策定し、取り組んでいく。 このプロジェクト演習Bでは、SDGsの目標にもなっている「ジェンダー平等」などをテーマに、地域の課題解決を目指す。		
授業のねらい	DP1◎ DP5◎ DP3○ DP6○ 本授業の主たるねらいは、地域や自分以外の誰かのためになるよう主体的に動く姿勢を涵養することである。実際に誰かの役に立てているという実感が得られるとき、この姿勢は確固としたものに育っていく。また、意味のある活動をしていくには、多くの場合裏付けが必要である。これまで本学で学んできた様々な知識や技能を総合し、自分たちの活動を意味あるものにするよう活用していくことも副次的なねらいである。		
授業の到達目標	・地域や他者のために貢献しようとする姿勢を身につける ・問題発見や解決のためにこれまでの学びを活用できるようになる ・さまざまな人と協働できるようになる		
授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	プロジェクトの準備①	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	2	プロジェクトの準備②	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	3	プロジェクトの準備③	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	4	プロジェクトの準備④	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	5	プロジェクトの準備⑤	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	6	実践活動①	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	7	実践活動②	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	8	実践活動③	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	9	実践活動④	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	10	実践活動⑤	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	11	実践活動⑥	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	12	実践活動⑦	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	13	実践活動⑧	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	14	振り返り①	個人、グループで振り返りを行う ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	15	振り返り②	引き続き、個人、グループで振り返りを行う ※活動振り返りノートの作成(1時間)
履修要件	特になし。		
成績評価の方法・基準	平常点：100%（プロジェクトに対する参加姿勢、授業中に課す各種課題）		
教科書・テキスト	授業中に適宜指示します。		
参考書	授業中に適宜指示します。		
授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む) 及び課題等のフィードバック	活動状況に応じて適宜指示します。科目の性質上、プロジェクトの遂行に関わる重要な学習になります。学習が不十分な場合は、以降の活動参加を許可しない場合があります。		

ドバックの方法	
オフィスアワー	一覧表参照のこと
担当教員からの メッセージ	活動だけではなく、事前・事後学習もしっかり頑張りましょう。
担当教員の連絡先	一覧表参照のこと

対象学生	人間学部人間心理学科	開講年度	2021
講義科目名称	プロジェクト演習C	授業コード	1213
英文科目名称			
担当教員	富川 拓		
配当年次・実施時期	4学年・前期	単位数	1 単位
曜日・時限	水曜日 3 時限	時間数	
授業形態	演習	科目分類	必修

科目コード /実務経験のある科目	科目コード H-4-41 実務経験のある教員等による授業科目 ☐ 該当
---------------------	---

ディプロマ・ポリシー	◎ : DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ○ : DP③ コミュニケーション能力 : DP④ 専門的知識・技能の習得 ◎ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ○ : DP⑥ 問題発見・解決力
------------	---

授業の概要	プロジェクト演習Cでは、原則として履修生が一つのチームを組み、科目担当教員の指導のもとでプロジェクトを策定し、取り組んでいく。 このプロジェクト演習Cでは、SDGsの目標にもなっている「ジェンダー平等」をテーマに、地域の課題解決を目指す。
-------	--

授業のねらい	DP1◎ DP5◎ DP3○ DP6○ 本授業の主たるねらいは、地域や自分以外の誰かのためになるよう主体的に動く姿勢を涵養することである。実際に誰かの役に立てているという実感が得られるとき、この姿勢は確固としたものに育っていく。また、意味のある活動をしていくには、多くの場合裏付けが必要である。これまで本学で学んできた様々な知識や技能を総合し、自分たちの活動を意味あるものにしよう活用していくことも副次的なねらいである。
--------	---

授業の到達目標	・地域や他者のために貢献しようとする姿勢を身につける ・問題発見や解決のためにこれまでの学びを活用できるようになる ・さまざまな人と協働できるようになる
---------	--

授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	プロジェクトの準備①	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	2	プロジェクトの準備②	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	3	プロジェクトの準備③	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	4	プロジェクトの準備④	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	5	プロジェクトの準備⑤	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	6	実践活動①	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	7	実践活動②	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	8	実践活動③	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	9	実践活動④	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	10	実践活動⑤	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	11	実践活動⑥	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	12	実践活動⑦	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	13	実践活動⑧	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	14	振り返り①	個人、グループで振り返りを行う ※活動振り返りノートの作成(1時間)
	15	振り返り②	引き続き、個人、グループで振り返りを行う ※活動振り返りノートの作成(1時間)

履修要件	特になし。
------	-------

成績評価の方法・基準	平常点：100%（プロジェクトに対する参加姿勢、授業中に課す各種課題）
------------	-------------------------------------

教科書・テキスト	授業中に適宜指示します。
----------	--------------

参考書	授業中に適宜指示します。
-----	--------------

授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む) 及び課題等のフィードバック	活動状況に応じて適宜指示します。科目の性質上、プロジェクトの遂行に関わる重要な学習になります。学習が不十分な場合は、以降の活動参加を許可しない場合があります。
--	---

ドバックの方法	
オフィスアワー	一覧表参照のこと
担当教員からの メッセージ	活動だけではなく、事前・事後学習もしっかり頑張りましょう。
担当教員の連絡先	一覧表参照のこと

対象学生	人間学部人間心理学科	開講年度	2021
講義科目名称	プロジェクト演習D	授業コード	2220
英文科目名称			
担当教員	富川 拓		
配当年次・実施時期	4学年・後期	単位数	1 単位
曜日・時限	水曜日 3 時限	時間数	
授業形態	演習	科目分類	必修
科目コード /実務経験のある科目	科目コード H-4-41 実務経験のある教員等による授業科目 □該当		
ディプロマ・ポリシー	◎ : DP① 人間の多様性を理解し受け入れる能力(多様性の理解) : DP② 自立的で意欲的な態度(自律性) ○ : DP③ コミュニケーション能力 : DP④ 専門的知識・技能の習得 ◎ : DP⑤ 地域や他者に能動的に貢献する姿勢(地域貢献性) ○ : DP⑥ 問題発見・解決力		
授業の概要	プロジェクト演習Dでは、原則として履修生が一つのチームを組み、科目担当教員の指導のもとでプロジェクトを策定し、取り組んでいく。 このプロジェクト演習Dでは、SDGsの目標にもなっている「ジェンダー平等」をテーマに、地域の課題解決を目指す。		
授業のねらい	DP1◎ DP5◎ DP3○ DP6○ 本授業の主たるねらいは、地域や自分以外の誰かのためになるよう主体的に動く姿勢を涵養することである。実際に誰かの役に立てているという実感が得られるとき、この姿勢は確固としたものに育っていく。また、意味のある活動をしていくには、多くの場合裏付けが必要である。これまで本学で学んできた様々な知識や技能を総合し、自分たちの活動を意味あるものにするよう活用していくことも副次的なねらいである。		
授業の到達目標	・地域や他者のために貢献しようとする姿勢を身につける ・問題発見や解決のためにこれまでの学びを活用できるようになる ・さまざまな人と協働できるようになる		
授業スケジュール	回	授業計画	学習のポイント
	1	プロジェクトの準備①	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	2	プロジェクトの準備②	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	3	プロジェクトの準備③	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	4	プロジェクトの準備④	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	5	プロジェクトの準備⑤	プロジェクトの準備 ※プロジェクトに関する調べ学習(1時間)
	6	実践活動①	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	7	実践活動②	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	8	実践活動③	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	9	実践活動④	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	10	実践活動⑤	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	11	実践活動⑥	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	12	実践活動⑦	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	13	実践活動⑧	実践活動。実際に現場に出て活動する ※活動振り返りノート作成(1時間)
	14	振り返り①	個人、グループで振り返りを行う ※活動振り返りノート作成(1時間)
	15	振り返り②	引き続き、個人、グループで振り返りを行う ※活動振り返りノート作成(1時間)
履修要件	特になし。		
成績評価の方法・基準	平常点：100%（プロジェクトに対する参加姿勢、授業中に課す各種課題）		
教科書・テキスト	授業中に適宜指示します。		
参考書	授業中に適宜指示します。		
授業外学習の指示 (準備学習等に必要な時間含む) 及び課題等のフィードバック	活動状況に応じて適宜指示します。科目の性質上、プロジェクトの遂行に関わる重要な学習になります。学習が不十分な場合は、以降の活動参加を許可しない場合があります。		

ドバックの方法	
オフィスアワー	一覧表参照のこと
担当教員からの メッセージ	活動だけではなく、事前・事後学習もしっかり頑張りましょう
担当教員の連絡先	一覧表参照のこと